

令和7年度 第4回小名浜港周辺エリアにおける防災・交通対策協議

議事要旨

1. 日時

令和8年3月23日（月）15：00～17：00

2. 場所

道の駅いわき・ら・ら・ミュウ 2階 研修室

3. 議事

(1) 開会

(2) 説明・協議事項

□ はじめに

1) 交通・駐車場対策

2) 津波避難対策

3) アクアマリンパーク周辺におけるインフラ整備と動線のイメージ

4) 今後のまちづくりの進め方

5) 今年度の協議会のまとめ

(3) 閉会

4. 配布資料

資料1 第4回協議会資料

5. 議事内容

□ はじめに

- 事務局より第4回協議会資料の「はじめに」について説明。

1) 交通・駐車場対策

1.1 アクアマリンパーク周辺における交通対策の基本的な考え方

1.2 駐車場整備（代替駐車場含む）の比較検討

1.3 代替交通手段導入の検討

- 事務局より第4回協議会資料の「1.1 アクアマリンパーク周辺における交通対策の基本的な考え方／1.2 駐車場整備（代替駐車場含む）の比較検討／1.3 代替交通手段導入の検討」について説明。

（上林教授（日本女子体育大学））・会長

- 今回の協議会は、来年度に向けた課題抽出として整理いただいております。厳しい状況を含めてご報告いただいております。
- 交通対策においては、アクアマリンパーク内のみでの対応の可能性も整理していましたが、今回の協議会では改めて地域全体での取組の必要性についてご報告いただきました。代替交通手段として、P&R（アクアマリンパークとアクアマリンパーク外の駐車場を繋ぐシャトルバスの運行）、路線バス、臨海鉄道、その他交通手段の活用の可能性について検討した。
- 代替駐車場については、小名浜港周辺の公共用地だけでなく、民間用地も含めて活用検討をしていく必要があることについて整理いただいております。駐車場の事例として、鹿島アントラーズ（Jリーグ）のホームスタジアムである鹿島スタジアムの周辺には大きな駐車場がいくつかあり、一部民間用地の駐車場と連携して活用するといった協力関係が築かれている。小名浜においてもそのような取り組みも検討が必要になってくると思うが、海に面しているため、エリア価値の向上だけでなく、防災等も念頭に置きながら官民連携で検討していくことが必要である。
- 臨海鉄道の検討については厳しい結果となっているが、現状想定される収支の試算結果となっている。今後、旅客鉄道の運行に伴うイベントの実施等で集客を見込む等、小名浜全体で事業性を考えていくことが重要と考える。
- 隔地駐車場の需要整理等に関しては、実態に合わせたシャトルバスの運行を検討していくことが重要と考える。

（柳内理事（福島県漁業協同組合連合会））

- 代替駐車場候補地について、いわき市小名浜の水産業においては福島原子力発電の事故の影響で汚染処理水の放出等が続いており、水揚げ量も回復していない状況。そういった状況の中で、昨年、被災した旧小名浜の魚市場を解体したばかりで、一時的に更地になっているが、漁港区であるため水産復興に貢献するような使い方をすべきであるという認識のため、ご理解いただきたい。

(上林教授(日本女子体育大学))・会長

- スタジアムを契機に本協議会が開催されているが、小名浜全体の価値を考えたときに水産業の復興を含めた、全体としてのエリア価値の向上を検討していくことが重要である。資料 P9 の代替駐車場の候補地については、必ずしもスタジアム関連の駐車場として使われるということではないので、小名浜港全体のあり方として今後ビジョンを考えていく必要がある。

(中村教授(日本大学工学部土木工学科))

- 資料 P10 以降に候補地に関する比較検討結果が整理されているが、エリア価値向上の視点を含めて検討されている。候補地の1つである多目的エリアについてはネガティブな評価となっており、記載の通りと考える。駐車場の候補地を考える上では、駐車場規模が一番大きな要素だと思うが、エリアの空間構造も含めてエリア価値の向上を検討していくことが重要と考える。アクアマリンパークにおける多目的広場はエリアの軸となる重要な空間で、来街者の視点でも印象的な空間構成となっているため、空間構造という面からも評価いただきたい。
- 旧小名浜魚市場は実際に歩いたが遠いと感じたため、代替駐車場を整備する上で利用しやすい面でも評価していただくと、利用者目線の検討結果として良いと考える。

(上林教授(日本女子体育大学))・会長

- 小名浜港全体の使われ方に関して、概ね漁港としての利用と観光としての利用等、小名浜港全体のビジョンを定めていくことが必要と考える。小名浜港全体のビジョンについては、福島県との連携が重要なため、福島県といわき市で連携して取り組んでいただきたい。

(古川理事長(公益社団法人ふくしま海洋科学館))

- 「エリア価値の向上」というキーワードが出ているが、どういう価値を想定して話しているか教えていただきたい。

(上林教授(日本女子体育大学))・会長

- 現状の「エリア価値」と今後具体的に検討していく「エリア価値」の意味合いは異なるだろうと考えられる。過去3回の協議会内では、現状のアクアマリン福島、イオンモールいわき小名浜、ら・ら・ミュウのアクアマリンパーク3施設において、来訪者数は震災以前の7割に留まっている。いわき市として、震災以前に戻すだけでなくそれ以上の来訪者数を目指すためには、港湾エリアの魅力向上が必須というご報告をしていただいていた。
- 私見としては、本協議会はスタジアム候補地が契機となったが、そもそも小名浜のコンテンツにスポーツ興行というものはなかった。そのため、スタジアムの整備により、今後「スポーツ×〇〇」という新しいエリア価値が追加されるようになって考えている。今後、未来の小名浜を考えていく上で、これまでの小名浜に新たな要素が加わった中で、更なる魅力向上に向けてどのようなものを付加できるかという観点で考えており、その更なる魅力＝エリア価値としている。

- 従来の小名浜港のエリア価値を俯瞰すると、単なる経済活動や消費活動だけでなく海の景観など歴史的に培ってきた価値も存在している。これまでのエリア価値を損なわずに、新しい価値を付加していくために、ちょうど良いバランスを考えていくことが必要。

(事務局)

- 「エリア価値」というのは概念的表現なので、捉え方が様々あると思う。スタジアムを契機に小名浜エリアの価値を上げていこうというところを考えているが、来訪者や交流人口が増加し、滞留することで、消費が増え、賑わいが生まれるという循環がわかりやすい価値向上と言えらると思う。
- 現在、防災と交通についての議論をしており、今後多くの方に来訪いただく上で、自動車だけではなく多様な手段で来訪いただく方法を検討することも、エリア価値が向上する方法の一つと考える。
- 3.11で被災した地域として、防災力を高めることもエリアの価値につながる。
- 集まった人たちが市内・市外の様々な場所に滞留できるようなアクセスを確保するための方策についても議論していきたいと考えている。
- 既存の景観に加えて、新しいコンテンツを活かすことで、さらに人が訪れ、防災力も高まり、交通手段も多様化できるように、小名浜全体の価値を上げていきたいという風に考えている。

(古川理事長(公益社団法人ふくしま海洋科学館))

- 今後、アウトプットとして市民にも周知していくことになるのであれば、何のために取り組んでいくのかということが重要なため、エリア価値という表現に留めずに具体的に示していただくと良いと思う。

1.4 交通ネットワークの課題と解決方策

- 事務局より第4回協議会資料の「1.4 交通ネットワークの課題と解決方策」について説明。

(大倉代表取締役(株)いわきスポーツクラブ))

- 先日開催された大宮アルディージャ戦にて、周遊バスとしてマイクロバス4台を運行した。スタジアムと他地域の観光施設をどのように連携して周遊してもらうかという課題があった。現在の自動車での来訪者であっても小名浜には行きづらいという声があったため、14時開始の試合だったが、試合前の朝9時と試合後に4台ずつ周遊バスを運行させ、387名の利用があった。
- 試合前はら・ら・ミュウに停留所を設置して運行したが、購入した魚を発泡スチロールに入れて持ってくるサポーターも多くいらっしまったので、取り組みの有効性を感じた。特に、試合後は一気に帰宅するため、滞留できる場所やイベントを作っていくことが必要だと感じている。
- 試合後については、湯本温泉巡りをしていただいた方が多くいらっしまったため、ニーズがあることも改めて確認している。

- 今後5月にもエリアを広げて実施予定。観光スポットを面でもとらえて、取り組むことで交通対策にもつながるのではないかと考える。

(上林教授(日本女子体育大学))・会長

- 市内の利用者が多かったと伺っており、市内でも循環ネットワークが不足しているということがわかった。小名浜だけではなく、市全体での循環を考えることも重要と考える。

(齊藤副校長・教授(福島工業高等専門学校))・副会長

- 資料 P28 駐車場の適正配置・誘導について、交通を分散させるために出入口を数多く設置したいということだが、出入口を増やしすぎると逆に駐車場内での混乱や事故等につながる可能性もある。現状のハワイアンズスタジアムにおいては、出入口が1箇所となっており交通渋滞が発生しているが、出入口を増やすことで混乱や混雑、事故が起きやすくなることもあるので、慎重に検討いただきたい。
- 他スポーツの事例として、福島ファイヤーボンズという郡山市を拠点とするプロバスケットチームがある。ボンズアリーナとしてアリーナの改修は行ったが、駐車場の開設や整備はしていない。昨年は2,000名程度の来場者だったが、今シーズンは4,000名程度の来場者と急増しているため、参考に駐車場の運用について調べていただきたい。駅が近いので、単純に比較はできないと思うが、公園の駐車場を使って運用していると思うので、そちらも参考に調査いただきたい。

(上林教授(日本女子体育大学))・会長

- 資料 P26 マリンブリッジ方面への出入りに関しての課題を整理いただきしており、前回の協議会でも提案したが、港湾事業者用の専用レーンを設置する考え方はあると思う。例えば、6車線と道路が広いので、港湾関係車両のみが走行できるレーンの設置や、港湾利用者の利用の仕方にもよるが待機場所の設定も有効と考える。こちらについては、港湾事業者へのヒアリングを通じて、実態に即した形で提案をできれば良いと考える。

(大曲副会長(福島県小名浜港利用促進協議会))

- 資料 P26 の東港出入口への信号の設置については、貨物車両はマリンブリッジから西側に運び、その後東側から戻ってきて右折でマリンブリッジに戻るため、信号の設置方法によっては、物流を停滞させる可能性がある。
- 貨物専用レーンの設置については、交通の錯綜を防ぐ良い対策と考える。

(上林教授(日本女子体育大学))・会長

- 信号については、感応式であっても一度停車が必要になるため、どこまで有効かは引き続き検討が必要である。

2) 津波避難対策

- 事務局より第4回協議会資料の「2) 津波避難対策」について説明。

(柴山准教授(東北大学災害科学国際研究所))

- 津波避難に関して課題を出していただいているが、今後は前半部分等のすべての内容を踏まえて分析して対策していく必要がある。
- 駐車場をゲート式にするかどうか等でも防災対策も変わってくるため、車をどう避難させるか、車での避難を抑制させるか等も含め、トータルで考えていく必要がある。
- 現時点での検討はここまでとなると思うが、今後來訪者が増加した際に防災としてはトータルで考え、安全安心な港湾を作っていくための検討が必要。

(上林教授(日本女子体育大学))・会長

- 資料 P35 ページに、小名浜全体のコミュニティを活用しながらエリア防災につなげていく「コミュニティレジリエンス」というものを松尾先生にご提案いただいた。本協議会を契機に小名浜港全体の横のつながりを防災につなげていけると良いと考える。

3) アクアマリンパーク周辺におけるインフラ整備と動線のイメージ

- 事務局より第4回協議会資料の「3) アクアマリンパーク周辺におけるインフラ整備と動線のイメージ」について説明。

4) 今後のまちづくりの進め方

- 事務局より第4回協議会資料の「4) 今後のまちづくりの進め方」について説明。

(齊藤副校長・教授(福島工業高等専門学校))・副会長

- 今後の進め方として、資料 P17 の臨海鉄道の検討において、JR 直通ケースについては今後の検討から除外と記載がある。難しいことは理解しているが、今年度は課題を整理し、来年度は本格的に検討を行うということであれば、いわき市の将来を考える上では必要な議論となるため、JR 直通ケースに関して検討の除外を断言するのではなく、検討ケースとしては残し、来年度改めて検討した上で判断していただきたい。

(事務局)

- 承知した。

(古川理事長(公益社団法人ふくしま海洋科学館))

- 資料 P37 のアクアマリンふくしまの西側の部分は動線として記載されていないが、スタジアムが整備されるとそのあたりにも人が入るようになると思うので、動線等は検討いただきたい。
- 資料 P39 のロードマップについて、スタジアムの建設は 2027 年 11 月に着工することになっており、着工後の来訪者は W2, W3 が使えなくなる。そのため、2027 年 11 月までには代

替駐車場が整備されている必要がある。また、W1 に立体駐車場を作る場合には、整備中に W1 も使えなくなると思うので、スケジュール含めて検討を進めていただきたい。

(上林教授 (日本女子体育大学))・会長

- 実際にスタジアム候補地の駐車場が使えなくなるタイミングを明確にして、来期の計画の中で詳細のスケジュールも調整しながら進めていただきたい。

(新田所長 (国土交通省 東北地方整備局 小名浜港湾事務所))

- 歩行者動線として、スタジアム候補地から3号ふ頭へ向かうところについて、3号ふ頭は中型・小型の貨物船の休憩用の岸壁があり、荒天避難で経由していく船や工事用の作業船舶が停泊している場所となるため、1号ふ頭や2号ふ頭のように人を誘導するのではなく、元々の水域の利用を阻害しないために、岸壁から離れた位置に動線を引いていただく必要がある。動線についてはご検討いただきたい。
- 個人的な意見ではあるが、3号ふ頭の東側について、試合日や特異日に限っては駐車場として利用するのは有効であると考え。スタジアム来訪者は、W1 や E1 のスタジアムの近いところに停めたいという心理になると考える。サッカーを見に来た方でアクアマリンパークの駐車場が埋まってしまうと、アクアマリンふくしまやら・ら・ミュウに来た人が利用しづらくなるため、隔地駐車場を作り利用してもらうことやアクアマリンふくしまやら・ら・ミュウから離れた駐車場に誘導するのは得策だと考える。

(上林教授 (日本女子体育大学))・会長

- 沿岸の港湾緑地については人の出入りできない場所のため、対策を施す必要があると考える。いわき市としても周辺整備を含めた議論を実施していくため、来期以降具体的に議論していきたい。
- 駐車場の位置は議論が必要と考える。スタジアムに近いところだけに駐車場を作ると、試合だけ見て帰ってしまう可能性があり、小名浜港全体の回遊行動が生まれなくなるのはもったいない。試合来訪者がイオンモールいわき小名浜等への立ち寄りの回遊行動を生むためには、駐車場の位置だけでなく、観光用のスモールモビリティの確保等も併せて検討が必要と考える。

(柴山准教授 (東北大学災害科学国際研究所))

- 3号ふ頭の東側の駐車場整備について、サッカースタジアム観客の利用だけでなく他の観光客を含めた利用がある場合に、3号ふ頭東側駐車場に車を停めて避難をする場合に、スタジアムの観客+ α を加味して考える必要があり、スタジアムの避難計画を検討する上でも反映する必要がある。
- 工事をしていく中で、避難看板の設置は多めに必要である。施工の段階から検討いただきたい。
- 現状でも問題点ではあるが、要支援者の避難としては難しい場所となるため、要支援者に対する注意喚起は来年度早々から看板設置等の対策を実施していただきたい。

(上林教授(日本女子体育大学))・会長

- 具体の議論は来年度になるが、3号ふ頭の東側駐車場を6m以上に立体化して避難可能なように整備することについては有効か。

(柴山准教授(東北大学災害科学国際研究所))

- 3号ふ頭の東側駐車場の立体化は、一時的な避難に対しては有効だが、避難が長期化する場合は得策ではないと考える。スタジアムが障壁となり、そこにがれきが蓄積してしまった場合に出られなくなってしまうため、避難用の立体駐車場を作るのであれば、ふ頭ではないところの方が良い。

5) 今年度の協議会のまとめ

- 事務局より第4回協議会資料の「5) 今年度の協議会のまとめ」について説明。

(上林教授(日本女子体育大学))・会長

- 4回の協議会の中で防災と交通という内容に絞ったものの、たくさんのテーマについて議論させていただいた。
- 来年度以降も引き続きよろしくお願ひしたい。

(事務局)

- 様々な課題があつてすぐに解決できるものではないが、小名浜が元気になる、またとないチャンスと考えて進めておりますので、ご意見いただきながら進めていきたい。
- 事務局より御礼を申し上げる。

(大倉代表取締役(株)いわきスポーツクラブ))

- 新スタジアムがきっかけということで検討いただき御礼を申し上げる。
- 現在、4月で基本計画が完了する予定となっている。今後、基本設計を行うことになるが、5月には状況を共有していく見込みとなっている。
- ビルディング棟のテナントの内容や階数、事業性等を含めて検討進めている。
- 市民にとっての価値のある施設や未来の子どもたちのための施設としてのあり方についてみんな考えていきたい。スタジアムがあることで、いわき市や浜通り、福島県が明るくなり、全国から注目されるような施設として、30年後、50年後に残していきたい。
- 今後も忌憚ない意見を聞かせていただきたい。

以上